

キューペット便り

二〇一七年九月号

訃報のお知らせ

葬儀施行会社として、改めて故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。 合掌

有限会社 屋久島葬祭
☎42-2941

故義母寺田リン子儀八月七日八十四歳の生涯をとじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭斎場さくらにて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 寺田 寿子
孫 寺田 真秀
孫 寺田 和雄
孫 寺田 十和
姉 寺田 和子
弟 寺田 正志
弟 寺田 通次郎
姪 寺田 幸代
外親族一同

故母三角アヤ子儀八月八日九十歳の生涯をとじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭斎場楽養生にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 三角 正
二男 三角 久男
長女 吉原 あい子
二女 瀬口 幸子
外親族一同

故母岡留ヤヲ儀八月二十日九十二歳の生涯をとじました。
なお、葬儀は自宅にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 岡留 和秀
長男 岡留 紀子
長女 岡留 玉枝
長女 岡留 俊彦
二男 岡留 俊彦
二女 岡留 千賀子
外親族一同

故妻日高ミチ子子儀八月二十四日八十二歳の生涯をとじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭斎場ブルマーージュにて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 日高 千早
長男 日高 安成
長女 日高 陽子
長女 岩川 隆春
二女 岩川 隆春
二女 岩川 隆春
二男 岩川 隆春
外親族一同

故兄牧和志儀八月二十七日六十八歳の生涯をとじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭 やすらぎの家 ながたの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 牧 宣之
弟 牧 宣之
姉 村田 宣之
妹 牧 宣之
妹 牧 宣之
妹 牧 宣之
妹 牧 宣之
外親族一同

株式会社 アムール屋久島

故妻倉野まゆみ儀八月三日五十九歳の生涯をとじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭 やすらぎの家 ひらうちりの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 倉野 一夫
長男 倉野 未来也
母 倉野 ツル子
外親族一同

故夫中島勲儀八月五日六十九歳の生涯をとじました。
なお、葬儀は斎場アムール屋久島にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 中島 五月
長男 中島 正志
長男 中島 正志
長男 中島 正志
孫 中島 寿希也
外親族一同

故母山下サダ儀八月八日九十二歳の生涯をとじました。
なお、葬儀は(有)屋久島葬祭 やすらぎの家 ながたの里にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 山下 善隆
長男 山下 善隆
長女 山下 善隆
二女 山下 善隆
四女 山下 善隆
外親族一同

故妻岩川フキ子儀八月三十一日七十九歳の生涯をとじました。
なお、葬儀は斎場アムール屋久島にて執り行いました。
ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。

喪主 岩川 安生
長男 岩川 博美
長女 岩川 美和子
長女 岩川 美和子
二女 岩川 美和子
三女 岩川 美和子
外親族一同

葬儀保険 元気な時こそ備えが大切!! 遺されるご家族のために... 最後の贈りもの「ありがとう」

保険会社	NP少額短期保険	ベル少額短期保険
加入期間	満79歳まで加入できます(最長満99歳まで)	満80歳10ヵ月まで加入できます(最長満99歳まで)
保険金	死亡保険金 90万(死亡保険金30万・60万もあります)	死亡保険金 100万(死亡保険金200万・300万もあります)
保険料	保険料 (例 50歳~59歳) 1ヵ月 1,925円(23,100円年間払いになります)	保険料 (例 50歳~69歳) 1ヵ月 2,000円
加入条件	入院中でなければ加入できます	告知・簡単な審査が必要です(医師の診察不要)
支払い	請求後3日以内にお支払いします	請求後3日以内にお支払いします

上記の他に、いろんなプランがございます。お気軽にお電話ください。☎42-2941

八月一日以降葬儀施行の御葬家様分です。誤字・脱字等ございましたらご容赦下さいませ。

安心の約束 イフ共済会 会員募集!

1家族 入会金は1万円! 特典いっぱい!!

(月会費は一切必要ありません。)

特典1 ギフトショップ オズ 5%割引 (雑貨やギフト商品すべて割引いたします。)

特典2 山野生花全店 5%割引 (切花、鉢、線香、仏具ほかすべて割引いたします。)

特典3 お供物(生花、花環、提灯) 5%割引 (突然の出費も…)

特典4 もしもの時の 葬儀基本料 10%割引

入会申込み用紙は各店舗に準備してあります。お問い合わせ 42-2941

ひつじゅん

「葬儀代が高い」と陰口を言われることがあるが、この言葉を聞くと、何を基準に高いと言われるかが分からない。その金額に対しての内容よりも、金額だけが話の中心となる。

前から言うように、故人に必要な物は安く抑える人が多い。

一番金額が変わるのは、会葬者に対しての返礼品と皆様の食事、飲物代である。

会葬者やご身内が多ければ、当然費用はかかる。弊社としても、負担が増えますので抑えてくださいとお願ひするのだが、内容を決められるのはご葬家。

「最後なんだから、頑張って普通かいよいよつにせんか」と費用を出さなくても口は出すご親戚の方が多い。

そうなる、葬儀終了後、すべての支払いをするのはご葬家様なんです。

葬儀は、この世の中に生まれ、たくさんの人と出会い、思い出を残し旅立っていく大切な人を送るために、日頃の生活を中断し、家族、知人が集まり偲ぶ時間。

だからこそ、いろんな経費がかかってくるので当然、家族、兄弟が集まるのは昔から葬儀の時と言われている。

少しでも落ち着いて葬儀、お別れができるように、私たち葬儀社は遺族に代わって動くのです。

「葬儀代が高い」と言われても、弊社が葬儀代を上げてくれるわけでもないのに、すこく残念です。葬儀代を抑えるなら、見栄を張らず、無理をさせないようお願いいたします。

「葬儀費用がかかる」「葬儀代が高い」は違います。ほんと深刻 人手不足

再三言っていますが、ますます深刻人手不足。少子高齢化により働き手不足。

会社運営していく上で、人手が必要。給料上げるにも、価格に反映できなければ経営を苦しくする。

限られた人数で現状維持が精一杯で、サービスの低下にもつながる。

近々上がる消費税、年金など生活を圧迫するばかり。さてさて、どうしよう。これが一番の問題。

感謝

あるご葬家の話。

痴呆の入ったお母さん、島内にいる娘さん宅と一緒に暮らしていた。お母さんは、住み慣れた集落に帰りたいと痴呆でありながらも娘に訴える。度々、家を飛び出したりして、娘さんに負担をかけており、娘さんとしては、つらくはがゆい思いをすることが多かった。

そんな生活の中、お母さんが入院。そして、もう命の灯火が切れる寸前に、面倒みてくれた娘さんに言った言葉。

「お世話になりました。ありがとうございます。あなたたちに会えて幸せでした。」

とお礼を言い、旅立たれたそうです。この言葉を残してくれたおかげで、一緒に過ごした苦労が救われたような気がしたそうです。

もし、旅立つ前にこんな気持ちのこもった言葉が言えたなら、幸せだろう。

そしてもし、こんな言葉を残して行かれたら、「こちらこそ、俺は何にもしてあげられなくて、ほんとゴメンネ：ゴメンネ、ほんとありがとう」と自分を悔やみ、涙を流し、手を握り返すだろうな。

「ありがとうの心に ありがとうの心」

あるご葬家の話。

ある集落のおばあちゃん。主人に先立たれてから一人暮らし。

そんなお母さんに、遠方にいる子供達からよく花の注文があり、届けに行っていた。

そんなおばあちゃんが亡くなった。病院から自宅へ搬送し、打合わせに入る。

日程を決め、故人の棺などを決める時がきた。今までよく聞く言葉「どうせ燃やすから、一番安い方がいいか」の言葉が出るのかなと心の中で思っていたら、「今まで頑張ってきたお母さんにこの棺にしよう。みんなで出し合えばいいじゃん」との言葉。

値段の高い棺にしたことがいいという話ではない。

日々、苦しい生活の中に、子供達が急遽、島外から高い交通費をかけて集まってきたのに、子供達みんな力を合わせてお母さんを送ろうという気持ちに心が熱くなった。

そんなご葬家さんの息子さん。

一人暮らししているお母さんのために、親孝行と思い、退職後、自分の家族を残し、一人帰島。料理を今まで作ったことない息子さんが、家事、親孝行できるだろうか。自分もそうだけど、何だかんだ理由をつけて、この一歩を踏み出さないだろう。

親の老後、そして別れ。

どのように受け止め、悔いのないよう送れるか。そして、いつか訪れる自分の番。

目の前で老いていく親の姿が将来の自分。この限られた時間は、ものすごく大切な時間でもあると思う。

鹿児島中央駅で天文館行きのバス停を調べるため、設置してある大きな案内板前で立ち止まっていると、おじさんが近づいてきた。ふと目をやると、おじさんが首からかけたネームプレートを見せながら話しかけてきた。

「どちらに行かれますか」と問われ「天文館に行きたいのですが」と答えると、「天文館行きは○番線で○時発ですよ」と、自前のメモ帳をめくりながら教えてくれた。

「ありがとうございます、ものすごく助かりますね」と感謝の気持ちを伝えた後、バス出発まで時間があつたので、そのおじさんの動きを見ていると、私みたいに案内板を見ている人に声をかけては、教えてくれていた。

ボランティアの人なんだろうけど、こんな人がいるだけですこく助かるし、心が熱くなる。

こんなボランティアの人が屋久島の海空の玄関口に来てくれたならどんなにすばらしいことだろうか。

小さな親切、大きな思い出に変わるだろう。